

令和5年度 江戸川区立二之江中学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	全校:「いま」「ここで」頑張る生徒を育てる ・健康で心豊かな人 ・自ら学び実行する人 ・協力し合い責任を持つ人 特別支援学級:社会的自立を目指し、人との関わりの中で心豊かな生活を営む力をはぐくむ ・身近生活の確立と処理 ・基礎的学力の定着 ・コミュニケーション能力の育成	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	日本一生徒を大事にする学校 「いま」「ここで」頑張る生徒 指導に迷ったときは、生徒にとってどちらが良いかを基準に判断できる教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>校内でICT研修を実施し、昨年度からさらに教師によるタブレットの活用方法が向上した。また「4人グループ・コの字型机配置」についてコロナ前に戻りつつあり、基本的なモデルを再構築することができた。関係諸機関と連携した特別な支援を必要とする生徒への個別の対応を行うことができた。 <課題>・江戸川区教育課題実践推進校として「4人グループ・コの字型机配置」による探究型学習の実現		

教育委員会 重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた 改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に對しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	コの字型机配置、4人組グループ学習 iPad、プロジェクター、電子黒板、ICT機器の活用(4月～) 放課後数学補習教室の活用(5月～) 電子ドリルの活用(4月～) 江戸川区教育課題実践推進校としての取組を通じた授業改善による生徒の学力向上(4月～)	講師を4回招聘し、全体授業検討会を年間2回、江戸川区教育課題実践推進校としての研究発表会を1回実施する。	B	B	○教育課題実践推進校としていへん有意義な研究ができた。今後の教育活動にも生かすことができる財産ができた。 ●電子機器、ICT機器の活用については進みつつある。とくに定期的に実施するCT活用の研修により、全く使えない教員はいなくなったが、十分に活用することができない教員もいる。	B	今年度は18年間の取組みの成果を校外に伝えられることができたので大変良かった。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実 探究活動、探究的な学びの充実 学校図書館司書の連携	本の紹介文提示率90%以上 調べ学習提示率90%以上 購入予定書籍100% 学校図書館司書を活用するとともにPTA図書館サポートの方々にも協力いただき、図書館整備を推進する。	B	B	○本の紹介文の取組み、司書とPTA図書館サポートと連携して図書館整備はできた。 ○●ビブリオバトルや図書ポップの取組は全学年で行われているが、学年によって内容に差があった。 ●調べ学習提示率については90%以上にはならなかった。学校図書館の授業での活用の推進が大きな課題。	B	司書とPTA図書館サポートと連携しながら取り組めたのはよかった。また年々図書館の整備が進み、充実していき様子がうかがえてよかった。 読書科担当教員を中心にビブリオバトルや図書ポップに国語科以外の教員でも取り組めるよう、指導事例を作成する。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・運動意欲の向上や健康の推進に向けた取組の実施・改善・充実	補強運動を年間計画に基づいて確実に実施する、(毎時間の授業開始時5分間)	校内で実施する体力テストにおいて、昨年度の記録を上回る生徒を50%以上にする。	B	C	●保健体育科の教員を中心に意識を高め、よく練習に取り組ませ、生徒一人一人が自己ベストを出せるような状況に持っていくようにさせるこてい。	B	昨年度の記録を上回ることができた生徒が多かったことはよかった。一方で上回った生徒と下回った生徒の二極化があり、来年度以降さらに広がらないように全体的に上回れるよう期待したい。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	個別指導計画の作成(毎月) 個々に応じた学習環境の充実 日常の活動、学校行事、部活動での交流及び共同学習(随時)	個別指導計画率100% 巡回指導員(月曜日・金曜日)の活用 交流及び共同学習参加率80%	B	B	○個別指導計画と巡回指導員の活用についてはおおむね達成することができた。 ●交流及び共同学習参加率80%については達成することができなかった。	B	個別指導計画は昨年度に引き続き達成できよかった。また巡回指導員の配置が変わったが、昨年度の引き継ぎがよかったのでスムーズに取り組めたことはよかった。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyspaer・QUの活用	各学年主任、生活指導主任、養護教諭、スクールカウンセラーによる校内支援委員会より、支援の必要な生徒への早期対応を図る。 ヤングケアラー支援強化に向けた全員面接の実施	不登校生徒の出現率を4%以下にする。 hyspaer・QUを年間2回実施し、委員会、学年会などで周知、検討を行い、個々に応じた対応を行う。	C	C	○●hyspaer・QUを年間2回実施でき、委員会、学年会などで周知することはできたが、すべての生徒に対しては対応することができなかった。 ○●昨年度と比較し不登校生徒の出現率は下がったが、4%以下にすることはできなかった。	C	hyspaer・QUの実施と委員会、学年会などで周知できたことはよかった。 不登校生徒の出現率4%以下になるよう委員会、学年会などで検討していただきたい。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	学校評議員会や道徳地区公開講座、保護者会などをとおして学校関係者と意見交換を行う。 学校・学年行事などの様子を積極的に発信する。	学校評議員会を年3回、道徳地区公開講座を1回、保護者会を年2回行う。 学校・学年行事の様子を随時ホームページで発信する。	B	C	○学校評議員会を年3回、道徳地区公開講座を1回、保護者会を年2回行い、学校・学年行事の様子を随時ホームページで発信することができた。 ●効果的な表われが少なかったため、今後実施することによる効果について検証を行っていく。	C	予定どおり学校評議員会、道徳地区公開講座、保護者会並びに学校・学年行事の様子を随時ホームページで発信することができたのはよかった。しかしどの程度効果があったかについての検証について行うことが必要ではないかと感じた。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	学校評議員会や道徳地区公開講座、保護者会などをとおして学校関係者と意見交換を行う。	保護者アンケートの項目の「基礎・基本の徹底を図る努力をしている。」「体力向上に向けた取り組みを行っている。」を昨年度より5ポイント以上あげる。	B	C	○●「体力向上に向けた取り組みを行っている。」の項目では昨年度より5ポイント以上あげることができたが、「基礎・基本の徹底を図る努力をしている。」の項目では達成することができなかった。	B	項目の「体力向上に向けた取り組みを行っている。」については目標を達成でき良かった。項目の「基礎・基本の徹底を図る努力をしている。」については、コロナ明けもあり、思うように取り組むことができていなかったのは残念だった。
	<地域との連携> ・レクリエーション活動の推進	地元のプログラビークリーム「クボタスピアーズ」との交流 民舞和太鼓部、吹奏楽部、ボランティア部等の活動として、地域行事等への積極的に参加することによる地域貢献	タグラグビーを通じてプログラビークリーム「クボタスピアーズ」と年間2回以上交流を行う。 地域のまつりや運動会、高齢者施設、保育所等で要請に応じてパフォーマンス等を提供する。	B	B	○プログラビークリーム「クボタスピアーズ」と年間2回以上交流することができた。またコロナウイルス感染防止期間から明けたとけもあり、地域での取組みが増え、受け入れ態勢を整えることができた。	B	プログラビークリーム「クボタスピアーズ」や地域での取組みができ大変良かったと感じる。今後も継続して取り組んでほしい。
特色ある教育の展開	<学校における働き方改革プラン> 「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・会議等におけるペーパーレスの実施 ・タブレットを使用した授業の実施及び課題の提示 ・定時退勤日の促進	・データ上での資料提示率90%以上 ・授業でのタブレット使用率80%以上 ・教職員の定時退勤率60%以上	C	C	○データ上で資料提示率、タブレット使用率は達成できた。 ●教職員の定時退勤率は達成することができなかった。	C	定時退勤率が60%以上達成できなかったことについては、今後の課題として来年度以降検討していただきたい。
								タブレット、連絡メールを利用した生徒への課題や保護者への通知ができ、ペーパーレスの実施ができた。しかし教職員の定時退勤率が60%以上達成できなかったので声掛けを積極的に行うとともに定時退勤ができるような環境づくりを行っていく。